

チェアマンより

西森 典子

ひと月遅れですが、明けましておめでとうございます。皆さまはどのような新年をお迎えになられたでしょうか？ この1年がみなさまにとってお元気で輝ける年でありますようにお祈りいたしますとともに、今年もどうぞよろしく願いいたします。

ブランチの仕事を引き継いではや7カ月、いくつかの行事をその間行ってこられたのも、たくさんの方のご協力・支えのおかげと感謝いたしております。委員会メンバーは行事ごとに、一つのチームとして連携がよくなっております。この一年もさらに助け合って前向きに楽しんで取り組んでいこうと思っています。どうぞこれからも、後押しよろしく願いいたします。(願わくば、やさしく温かく)

New Year Dance は、年明け早々でどのくらい集まってくくださるかな？と懸念しておりましたが、74名参加くださり、委員を入れた82名でしたので、ちょうどいい広さでダンスを楽しんでいただけたと思います。MCの境雅子さん・鈴木百代さん、ミュージシャンの小海弘子さん・青山るりさん、そして皆さまがダンサーのご協力のおかげでスムーズに運ぶことができました。ありがとうございました。

今年はピアノだけで踊っていただき、それぞれの音楽性の違いも楽しんでいただけたことと思います。時々ピアノが流れてくると、ダンスへのはやる気持ちからか、MCがアナウンスされる前にセットができていたこともありました。

委員が車で来ることができず、例年のようなお茶の支度ができなかつたため、お一人ずつペットボトルをお渡しする形にいたしました。このスタイルはいかがでしょう？いつでもご意見、ご感想お聞かせいただければ今後の参考にしたいと思います。委員にとっては準備、片付けが楽にできて助かりました。



Weekend 2015 は検討を重ねた末、5月の連休明けに決定し準備を進めております。すでに申し込み受付も始まっております。東京ブランチにとっては初めての場所で行いますが、会場の評判はいいようですので、たくさんのご参加をお待ちしております。1泊2日ですが、講習もダンスもお友達とのおしゃべりも、たっぷりお楽しみください。

また近々会員登録更新手続きが始まります。本部納入会費が2014年より£18と値上がりした上、このところの円安でさらに高いレートで設定せざるおえない状況をご理解いただきたいと存じます。

この一年もダンスで素敵な出会いと感動がありますように！

2015年1月末日

7 日 金曜日 Teachers' Conference (10:30am~4:30pm)

これは AGM の一部ではないが、75 人の Teachers が参加して、以下のトピックの紹介・質疑応答など有効な内容だった。

- ネットでのダンスのリサーチ、<http://my.strathspey.org> での Database の使い方、A4 サイズに書かれたダイアグラムを 8 ページの小型プログラムにする作り方など興味深い内容が、Anselm Lingnau によって紹介された。
- 2014 年 10 月に変更された試験概要および Dancing Achievement Award の説明。
- School Accreditation Scheme、Jigs & Reels (小学校向け)、Dance Trad (中高校向け)の紹介
- Foss & Imperial Books からのダンスの紹介

実際の AGM は 7 日の夜 8 時からの「ソーシャルダンス(日本でいうパーティ)」で始まった。8 日の夜は着飾っての Ball。会場がスポーツセンターで大きいため、800 人近いダンサーが一堂に会して踊れる魅力があるものの、こちら側とあちら側では距離がありすぎて話をするのも難しく、終わってから「アレア、来てたのオ?!」だった。いずれにしても、海外からも参加があり、古い友人、新しくできた友との交流の場となった。

最も重要な年総会は 2 時に始まったが、チェアマンから「終了は 5 時半の予定」と最初に切り出され、みんな長い総会になることを覚悟させられたと同時に、そうならないようにスムーズに話し合いを進める必要性を感じさせられた。

今年の総会の議事録は、3 ページにも及ぶもので、今までにないたくさんの議案を抱えていたので、私は同じく東京 brunch の代議員を頼まれ、チャリティ法に詳しいブライアン・ハリーと打ち合わせをして、総会に望んだ。

ここではかいつまんで、重要なことのみに触れたいと思う。

- 2015 年 7 月からの年会費はソサエティの財政が安定しているため、現状通り £18 で採決された。
- ソサエティのチェアマン、各委員長、役員 (Management Board) たちは管財人 (Trustee) の立場にあるが、何かあった場合に保護されていない。そのため Company Limited by Guarantee (CLG) という法的な形態をとることが提案された。トロント brunch から内容的に完全ではないし、各 brunch にも明解な説明と理解を得ていないので、一年この採択を延ばすよう提案があったが、賛成 260、反対 43、棄権 11 で CLG となることが採択された。
- 以下の規約改正が採択された。
 1. President は Option とし、適任者が見つかるまで空席とする。
 2. 管財人 (Trustee) を最高 15 人までとする。
 3. 古文書管理委員 (Archivist) は「役員会」に報告する。今まで古文書管理委員は「会員サービス委員会」のみに報告していたが、ソサエティはこの分野を強化するために一年間プロの Archivist を雇ったり、管理のために財政的な需要が出てきたため、直接役員会に報告することとなった。
- 以下の規約改正は却下された。
 4. 「会員サービス委員会」の名前を「出版委員会」と変更する。現委員会の内容は、ほとんどが出版物の監修に当たっており、また 11 月 17 日からデジタル・マーケティング・コミュニケーション専任の職員が雇用され、本部職員が主に会員サービスを担当していることから、名前を仕事内容に適合するように変更する議案が出された。しかし会員へのサービスに対す

る戦略を決め管理する委員会の存在は重要であるとして反対意見が多く出され、名前変更賛成 175、反対 117、棄権 22 で、規約改正には 2/3 の票が必要なため棄却された。

5. 役員会が今回この項に挙げられたような上記 1~4 の規則 (Rules & Procedures) の変更ができ、年総会に報告するだけでいいという議案は、明確な多数決で却下された。
- ニュージーランド・ブランチからの議案「ティチャーにはソサエティから出版されるブックを無料で配布する」は、各ブランチが判断し、ブランチティチャーに配布すればすむこと、会員に差をつけるのはチャリティ法に反するなどの意見が出され、却下された。
 - 委員選挙結果
 1. Chairman Elect --- Helen Russell
 2. Convenor Elect --- Anne McArthur
 3. Management Board --- Tom Halpenny (SW ワシントン・ステート), Bernie Hewitt, Isobel McMillan
 4. Education & Training --- Elaine Cameron, Sue Ronald (ニューヨーク)
 5. Membership Services --- Tom McKinlay (パリ), Keith Rose
 6. Youth Services ----- Emma Allsop, Raphaëlle Orgeret (リヨン)

候補者が少なく選挙とならなかったケースと海外在住者が立候補しているケースが多く見受けられました。

この年総会に当たり、尽力された方々への感謝の辞が述べられた後、来年の年総会が 2015 年 11 月 7 日パースで開催されることを確認し、17:15 閉会されました。

土曜日と日曜日の朝はそれぞれ 1 時間半のディスカッショングループとクラスに分かれ、土曜のディスカッションは「会員を増やす」、日曜は「Youth」について話し合われた。

クラスは土曜がイングランドのサリー・ボーダー・ブランチのポール・プラマーとピアノがアンドリュー・ノーランで、姿勢とアイ・コンタクトを強調。ただし、アイ・コンタクトを余りにも強調し過ぎたため、皆凝視し合うようになってしまい不自然に思えた。

日曜は、1797 年私の初めてのヤンガーホールのデモでパートナーだったダンフリーズ・ブランチのウィリアム・ウィリアムソンとミュリアル・ジョンストンのクラスであった。ウィリアムは SCD のルーツがスコットランドであること、その伝統と音楽、エチケットなど、スコットランド精神をテクニックと共に強調し、この年総会中常時待機していた赤十字スタッフや我々のためにボランティアで活動してくれる委員の方々への感謝の意を参会者に促すなど、年総会の締めくりに相応しいクラスであった。

また日曜日は終戦記念に当たり(本来は 11 月 11 日であるが、最近ではそれに一番近い日曜日に行われるようになっている)、特に今年は第一次世界大戦開戦から 100 年目に当たり、クラスの最中 11 時に 2 分間の黙祷、前チアマンのジョン・ウィルキンソンの祈りの言葉とミュリアル・ジョンストンの「Flowers of the Forest」の演奏があり、平和のために散った若者たちを偲びました。

Ball の最後も、最近演奏されなくなっていた英国国歌の演奏があり、最近忘れかけていた、または無視されていた伝統を感じ、嬉しく思いました。世界の注目を浴びたスコットランドの国民投票でスコットランドは United Kingdom の一員であることを選択しましたが、スコットランド人の自意識と誇りは大いに高まったと思われます。

報告: クレメント篤子

運営委員会報告

2014年10月4日

1. Weekend 2015

・会場ホテルについての報告:5月9-10日大江戸温泉物語日光霧降に100名で予約。東京からの送迎バスは冬季以外はなし。原則4人部屋で手配。

・講師交通費、謝礼、宿泊費を含めて予算を概算し参加費は最低16000円とする。部屋の種類により、1000円ずつ加算される。

・新マニュアルの気になる個所が入ったダンスを講習してもらいたい旨篤子さんに伝える。

2. Book48 講習会総括

・参加者105名で会場が手狭ではあったが、成功だと思う。時間の割にダンス数多かったが、できるだけたくさん講習してもらえた。

・他ランチRSCDS会員から余分に参加費徴収し、終了後返金したが、2名の方は寄付にと申し出され、該当人数のうち2名が不明。非会員の認識を再確認する。

3. New Year Dance

・1月4日駒込地域活動センターを確保。更衣室用の洋室2部屋は2カ月前に抽選。

・担当者の準備してきたプログラム案を委員で検討し、決定。

・ミュージシャン:小海弘子さん、青山るりさん・MC:中田田鶴子さん、有田深雪さん、篠塚昌子さん、鈴木百代さん、境雅子さんに打診する。

4. 新マニュアル講習会について

・合同開催を申し出ていた埼玉ランチから来年11月の1泊2日のWeekend参加に引き続き1泊2日で行うため、勉強会に参加する場合は2泊3日の参加でという回答。案内ちらしが来た時点で会員に送付する。

5. その他

・ショップ関係:レター98掲載分の収支はセット注文価格を設定して少し値引きしたが、大量注文のため200000円の収入増となる。

・Weekendで在庫整理するためにリスト作成して、来月

委員会で価格設定する。

・会員数に、HQからの請求人数が違っていたので、登録用紙とこちらの会員名簿で確認する。

6. 本部関係

・Scroll of honour:該当者なし

・次期チェアマン、メンバーシップ・サービス委員会委員の選出してHQに郵送。

・Book49評価まとめHQに送付の報告。

2014年11月1日

1. New Year Dance 2015

・ミュージシャン:小海弘子さん、青山るりさん、MC:鈴木百代さん、境雅子さん決定。

・タイム・テーブル検討と各担当決定

2. Weekend 2015

・篤子さんへ新マニュアルのいくつか気になるフォーメーションの入っているダンスで講習をして貰うよう依頼。

・タイム・テーブルを検討し、プログラム草案作成は順番制にして行うことで合意、次回委員会で検討後決定する。

3. JEC

・JEC委員に疋田千鶴子さん、岩瀬よし子さん受諾。埼玉は佐藤仁美さん、渡辺悦子さん・東海は小山かおるさん、増本さん。

・11月3日17:30新大久保地域センターにて第1回委員会開催に西森・若松委員も同席する。

・12月号ニュースでもう一度Unit1受験締め切り日掲載して募集。

4. 本部関係

・会費問題でHQからライフ会員の家族のファミリー割引はないと毎年言われ続けているので、該当者に来年度はキチンと説明する。

6. その他

・ショップ関係:レター99の注文数報告。

・在庫セールのための価格設定しWeekendでなく、まずランチクラスで紹介販売を試みる。

-
- ・天候等でのクラス中止の際はクラス担当者に各自電話してもらおうようクラスで知らせておく。確認方法を会員にニュースでも掲載して熟知してもらおうことにする。
 - ・会場抽選に協力者への謝礼はないのかとの問合せにたいして、会員は交通費のみ、非会員には年1回お礼するという従来どおりを継承。

2014年12月6日

1. New Year Dance 2015

- ・会場下見報告:横断幕吊り下げ棒、壁プロ貼り付け場所確認、ホール内での飲食はよいが、外のロビーは不可。事務所に必要事項と会計予算を提出。

2. Weekend 2015

- ・プログラム検討し決定。

3. JEC

- ・JEC立ち上げの報告:ランチ負担金10万円をJECトレジャーに支払う

- ・10月実施のUnit 1合格者2名東川さん(東京)・赤松さん(東海)

4. 本部関係

- ・Elspeth へのお餞別問題:埼玉ランチから同額にしてはと打診あり、東京ランチから50ポンドとすることにした。別に委員会で Thanks Card を出す。

- ・篤子さんからのAGM報告をレター100号に掲載。

- ・HQより Deligates の申請書提出依頼あり、今年度と同じ篤子さん・Brian Harry で提出。

5. その他

- ・2015年度クラスティーチャーアンケート実施に関してランチ会員全ティーチャーに出すアンケートを、ランチに多大な貢献協力しているクレメント・篤子さんにも送付する。

- ・マガジン和訳編集終了発送は12月のニュースに同封してもらう。

- ・ショップ関係:鳥山さんから2種類紹介(間に合えば Leeds Branch のCDも紹介したいので、鳥山さんからの追加原稿も入れたい)があり12月ニュースに同封。

2015年1月10日

1 New Year Dance 2015

- ・会費徴収者72名+ミュージシャン2名に委員をいれて82名と昨年度より少ないが、会場のスペースからするとちょうど踊りやすかったようである。各自にペットボトルと茶菓子を受付で配布したので、すぐ飲めるから便利との好意的意見もあり、委員としてもゴミ処理とかの片付けがなくて助かった。駒込会場は横断幕取り付けが簡単な装置だったので楽だった。New Year だからと、お菓子を少し上等にしたため、赤字(4000円)であったが、よろこんでいただけたと思う。委員の連携もうまくいったと思う。MC、ミュージシャンからもお礼のメール届いた。

- ・他ランチのように事前申し込み制にするかどうかの提案は、今後検討したい。

2 Weekend 2015

- ・ミュージシャンを検討、募集ちらしも検討して参加費、締め切り日(早割1000円引きとする)を決定し、ミュージシャンの回答後、案内チラシを印刷してニュースに同封する。

3. ランチ・クラス担当について

- ハガキ回収率はほぼ3/2でそのうちの半数は辞退との回答。Beginners' Class の指導者に欠員が3タームあり、3か月がネックのようなので、1か月単位だと可能な人に再度依頼してみる。General Class も欠員があったので、委員が穴埋めする。

4. 本部関係

- ・Elspeth へのお餞別は50ポンドを送金したとのセクレタリからの報告。

5. その他

- ・レターNo100 掲載内容を検討、2月のニュース発送時に送付予定。

- ・ショップ関係:レター99号掲載注文の収支報告あり。56,485円の黒字であった。

- ・2015年度会員更新関係:2月に会員に発送できるよう準備する。

会員からの声

今回は興味深い話ではないかと、鳥山豊喜さんから寄せられたロンドン・ブランチ会員誌 The Reel の記事と、年9月ドイツ・ケルンの Weekend へミュージシャンとして参加された青山りさんの手記をご紹介します。

SCD—戦後の大転換

ロザリンド・ザリディス

わたしも含め多くのダンサーは、カントリー・ダンスが 20 世紀に劇的な変化を遂げたことを知っている。そしてこれについてももっと知りたいと思っているのではないだろうか。

年代順に取り組むべきと思い、わたしは RSCDS が出版したブックをよく読むことからはじめた。ブックは、ミス・ミリガンとミセス・スチュワートが忘却の危機から救いだしたダンスの貴重な宝庫である。その目的は 1923 年に宣言されており、「スコットランドで踊られていたカントリー・ダンスを守り、発展させること」である。20 世紀の初めごろ、カントリー・ダンシングは消滅寸前であったが、ミス・ミリガンとイゾベル・スチュワートの尽力によってこの伝統をよみがえらせることに成功したのである。2 人の成果は英国におけるカントリー・ダンシングの復興につながり、そして徐々に世界に広がっていった。

Book 1 (1924 年出版)を皮切りに、(本部資料庫で)わたしは 17 世紀から 19 世紀中ごろまでに出版社あるいはダンシング・マスターたちが発行した、たくさんコレクションを読んでみた。かつ、スコットランドのカントリーサイドや、ボーダー地方の古老から聞きとったダンスにも範囲を広げた。いうまでもなく、これは広範囲の、そしてむかしのダンシングの一場面をおもい起こせる魅力的な資料であった。

しかしながら、新しいダンスに親しんでいる人は、上記の古い本を読んで驚かれるかもしれない。というのは、多くのダンスがシンプルなフィギュアとプログレッションでできているからである。もっとも共通しているフォーメーションは rights and lefts, back to back, advance and retire, turn corners and partner, right and left hands across であった。古いダンスはちょっと堅苦しくてセット内に閉じ込められるようであり、流れはぎくしゃく、セット枠を越えようとするものはまれなケース、というのがわたしの印象であった。この堅苦しさに影響を与えた大きな要因は、当時の主流が 2 カップル・ダンスであったことによる。2 カップルではできる範囲に限られ、その結果、より広い流動性はみられなくなる。

第 2 次大戦が終わり、RSCDS は活動を再開した。ほとんどがトラディショナル・ダンスであったが、カントリー・ダンシングは大いに普及し、この時期が黄金時代と呼ばれることもある。だが、いまわれわれが宝としているダンスは、その元々の時代からはるかはなれて拡大したものである。わたしたちにはいまや数千を超えるニュー・ダンスがある。この変化はいつごろ、どのようにして起こったのだろうか？

たくさん新しいダンサーが出現した 1950 年代にダンシング・シーンが変わったとみなされている。まず新しいダンス創造の始まりを見よう。この道を切り開いた最初の人物はかの尊敬すべきヒュー・フォス (1902-1971) で、かれの戦時中の経歴を見ればなぜそうであったのかわかる。フォスはトップクラスの暗号解読者で、1934 年に日本海軍駐在武官の暗号を解読し、第 2 次大戦中にはブレッチリー・パークでエニグマ暗号解読チームの一員となっていた。1922 年生まれのヒュー・サーストーンも同じような知力をもっていた。かれは数学/暗号学者であり、さらに古代天文学の研究者でもあった。2 人はダンスをより複雑なパターン、順序のものにしたいという情熱をはっきりともっていた。

フォスとサーストーンは新しい流れを率いる能力ある旗手であり、1950 年代、60 年代に他の意欲的なダンス創作者、すなわちジェームズ・コッシュ、ボブ・キャンベル、ディレク・ヘインズ、ロイ・クロウズ、ジョン・ドゥルーリ、ダグラス・ヘンダーソン、ロイ・ゴールドリングに大きな影響を与えた。

いまはなんと創造的な時代であることか！ かれらダンス考案者たちはエキサイティングなフォーメーション、相互作用の幕を開けてくれた。このようにして、セットはより豊潤にダイナミックになっていったのである。コッシュの Mairi's Wedding (1959)は half-diagonal reel of four を4回続けてセット全体をかみ合わせている。流れを生み出し、セットが一体となっているのはドゥルリーのダイナミックな Bratach Bana (1968)で、サイドとアクロスの half reel、ピックアップという軌跡、diagonal rights and lefts による陽気なフィナーレがある。

ヘインズの My Heather Hills (1966)には革新的なターンによる導入部、早く激しい diagonal な動きがある。1967年にはフォスによるすばらしい5カップル・ダンス、Polharrow Burn がうまれた。トップ&ボトム・カップルはそれぞれ反対の位置にフライトし、くらくらするような reel でその場所にもどる。この時代、これ以外にも tournée、spurtle、rondel、set and link、snowball chain のような革新的なフォーメーションが考案された。きらめくアイデアがカントリー・ダンシングに行き渡るようになったのである。

ミス・ミリガンとその同士はこの新しい波の影響力をはつきりと感じていた。われわれは Book 22と23において、過去のダンス収集から離れ、新しいダンスがはじめて評価されたことを知る。Book 22 (1963)は12のモダン・ダンス、Book 23 (1967)はさらに12の新しいダンスを含み、新時代への曲がり角を示している。これ以降、RSCDS ブックは新しいダンスをだんだんとり入れるようになった。RSCDS が目論んだ黄金時代は、この新しい手法によって豊饒になった。

初期のダンス創作者のもっとも驚嘆すべき特質は、かれらがダンシングのティーチャーではなく、もともとダンサーでもなかったということであるが、しかし数学を好み、パターンを創造し、時間経過と位置の可能性を追求することに熱心であった。フォスの影響力がここでも感じられる。エニグマ暗号解読に貢献したことについて、フォスのコメントは『わたしが用いたのは幾何学的な方法だった』。幾何学とはつぎのように定義されている。すなわち、形状、大きさ、形の相関位置、空間の性質を研究する数学の一分野、である。カントリー・ダンシングにおけるけたはずれなアイデアは、この暗号破りにとってふつうのことであったのだ。

フォスとその一党のあいだには大きな共同体意識と相互の刺激があった。仲間たちが自分のダンス集を出版しているとき、フォスは家長として、かれら以外によるダンスをグレンダロホ・シート集 Glendarroch Sheets として世に出した。他方、ボブ・ドナルド夫妻とロイ・クロウズ夫妻は(のちに Scottish Dance Archives となるが)新しいダンスを同じように試し、出版していた。新しいダンスが広まった要因はロコミと人気の高まりであった。われわれがよく知っているダンスの数々は、燎原の火のごとく広まっていったのである。

かれらはカントリー・ダンシングの伝統を熟知しており、ゆえにかれら新ダンス作者を、まったくの旧弊ぶち壊し屋と考えるのは誤りである。サーstonは、ハイランド、ステップ、カントリー各ダンシングについて研究・追究した成果を1954年に「Scotland's Dances」としてまとめた。フォスは1951年、ロンドン・ブランチ機関紙「The Reel」を創刊した人であるが、1973年に出された「Notes on Evolution in Scottish Country Dancing」でかれはRSCDSの功績を称賛している。RSCDSの手法もよく認識していた。サーstonは『RSCDSではエレガントで風雅なマナーが教えられた』と敬服して述べている。

1960年代以降、われわれはトラディショナルとモダンという2つの流れがともに機能していることを知っている。RSCDSは全世界にスコティッシュ・カントリー・ダンシングを指導し、出版することに力を注いでいる。同時にその出版物は新しいフォーメーション、新しいダンスの普及に役立っている。フォスその他によって始まったダンス創作の情熱は、あらゆるところで引き継がれている。すばらしい新ダンスはRSCDSを通じて広められることもあれば、あるいはインターネットで脚光を浴びることもある。初期のダンス創作者たちはこの状況を満足すべきものと思うに違いない。[Scottish Country Dancing: the Great Post-War Transformation by Rosalind Zuridis, from The Reel No.288, May to Aug 2014]

ケルンの旅～40周年パーティ2014～

青山 るり



2006年にフィドルのキース・スミス氏が初来日した際に、先生(師匠)になってもらってから早8年。来日時にアドバイスを頂いたり、パーティなどで一緒に演奏させてもらったりしながら、少しずつダンス音楽を学んでいました。普段は年に数回演奏の報告をするくらいでしたが、ある日珍しくメールが届きました。また日本に来られるのかと見てみると、「コロン(ドイツのケルン)で一緒に演奏してみませんか?」という内容でした。あまりに突然だったので、ビックリして家族やグループの先生や仲間に相談したところ「いい機会だから勉強してきたら?」とみな背中を押してくれました。そして今回はとてもラッキーなことに、所属グループと親交のあるクレメント篤子さんもウィークエンドに参加されるということで、通訳など色々とお世話になることになりました。

まずスコットランドに少し滞在し練習してからケルンへ向うことになりました。日本の9月はまだ暑いですが、あちらはすっかり秋です。晴れていても日が落ちるとグッと冷え込み、持って行ったユニクロのダウンは非常に重宝しました。ピアノは一人か複数かによって全く違う役割を担当するので、勉強することがとても多いのですが、実に奥が深いです。どのジャンルも難しいのですが、特に気を遣うのはジグです。小節内の音の数が少ないので、弱拍のタイミングを合わせるのに神経を集中させなければいけません。キースのジグは躍動感がありとても踊りやすいのですが、そのタイミングに慣れるため、何度も練習しました。

さて私達はヒースローからデュッセルドルフへ向いました。フライト時間は約1.5時間であつという間です。会員さんが出迎えて下さり、車で会場へ直行しました。どんどん街中から遠ざかり、有名な大聖堂もチラッと見えた程度です。到着した会場は、旧僧院で中庭がありとても素敵ですが、中に入ると近代的な内装でそのギャップに驚きました。早速サウンドチェックとセッティングにかかります。あいにくピアノではなかったのですが、電子ピアノはなんとヤマハのクラヴィノーバ。なんだか懐かしく、見慣れたメーカーにホッとしました。夕食まで時間があるので、先ほど車窓から見えた大聖堂へ連れて行ってくださることになりました。つい2,3日前に司教の交代があり、なんとなくお祝いムードを感じます。大きな鐘がゴロンゴロンと鳴り響いていました。見た目は荘厳という言葉がピッタリです。中に入るとし～んと静かでしたが、少しするとパイプオルガンの演奏が始まりました。天井がすごく高いので、音が柔らかくふわ～と降り注ぐように聞えました。後ろ髪を引かれる思いで大聖堂を後にして、ピアレストランへ移動しました。ここで役員さんと講師を担当するフランスのパトリック氏(Patrick Chamoin)と顔合わせです。パトリックは細身で物静か。目が合うとニカッと笑うのと、食べるのがゆっくりだったので安心しました。なにせ隣に座った方は私の二倍はゆうにある大きな女性で、食べるのがすごく早くて焦っていたのです。



翌土曜の午前からダンスがスタートしました。このクラスはキースのみの演奏で 私は踊りながら演奏しているテンポなどを客観的に捉えることにしました。ケルンはスコットランドより暖かく湿度もあり、窓を開けて涼むくらいでした。午後からは伴奏に加わりましたが、来る前のメールのやりとりで手違いがあり、クラスでの音楽は1/3くらいが初見になってしまいました。急いでコードを書いても違う曲を弓で指されて弾くこともあり、その時ばかりはキースが鬼に見えました。

そしてクラスはなんとか無事終わり、夜はいよいよパーティです。フロアの中央に依頼を受けたパイプバンドが控えていました。バグパイプ約10名、スネアより乾いた音の小太鼓が6名、数名の大太鼓による迫力ある演奏に乗って、ダンサーが入場してきます。2人ずつ手を取りながら入り、周っていくうちに倍々になり、最後に二手に分かれてセットになりました。最初はマーチ、次には48小節の踊りが待っているのです。緊張をほぐすのにちょうど良かったです。今回は数字をテーマにしたプログラムで40,48小節やメドレーもあり、踊る方も演奏する方もスリル満点です。キースは体全

体を使って表現するので、自分が焦る時にチラリとみるとテンポを合わせ易く、何度も助けられました。前半の最後に Eightsome Reel をやって盛り上がり、夕食の時間となりました。食事は自由に取り取るビュッフェ形式で、美味しかったです。ボリュームがあり、魚より肉料理が中心でした。

さあいよいよ後半です。ダンサーは皆楽しそうなので、私もアンサンブルを通して一緒に演奏で踊ろう！と思いました。19:30 に始まり 18 曲のプログラムですがアンコールも入り、いったい何時に終わることやら…。食事休憩があるとはいえ、こちらの人達のタフさに脱帽です。ようやく最後のダンスが終わると拍手になり、それが手拍子に変わると Reel の Fairy Dance を演奏して応えました。踊りたい人達はカップルで周回し、お開きとなりました。翌朝のクラスの一曲目は、大聖堂を案内してくれた方と踊り、二曲目から伴奏に加わりました。レッスンの最後にクールダウンのワルツを弾いて、無事に終わり何はともあれめでたしめでたしです！参加者の方から声を掛けて頂き、中には覚えてたの日本語で感想を伝えて下さった方もいらして、語学が苦手な私にはとても嬉しかったです。

今回の旅を通して、これからダンスと同じくらいに演奏を楽しめるようになりたいな、と思うようになりました。ゆっくりですが、この経験を活かして続けていこうと思います。クレメント篤子さん、快く送り出してくれ石田由美さんはじめ船橋グループの皆さんに、この場を借りてお礼申し上げます。



ブランチ・クラスで取り上げたダンス

1. ビギナーズ・クラス

10月13日 講師 寺山 晶子

1. The Highland Fair J-32 Gr.
2. The Old Man of Storr R-32 Gr.
3. Tartan Plaidie S-32 Bk-7

10月27日 講師 寺山 晶子

1. It's Nae Bother J-32 Gr.2
2. The Bob of Fettercairn R-24 Bk-6
3. Friendships S-32 Gr.3

11月10日 講師 寺山 晶子

1. Lady Catherine Bruce's Reel J-32 Gr.
2. Hedwigs Reel R-32 Gr.2
3. The Ninety -Second S-24 Bk-4

11月24日 講師 寺山 晶子

1. Sally's Fancy S-32 Bk-27
2. Blue Bonnets J-32 BK-3
3. Davy's Locker R-24 Gr.

12月8日 講師 寺山 晶子

1. Lady Lucy Ramsay S-32 MMM
2. Lady Dumfries R-32 MMM
3. St. Andrew's Fair J-32 1982

12月22日 講師 寺山 晶子

1. The Paisley Weaver's S-32 Gr.3

2. Clyside Lassies R-32 MMM

3. It's All Right J-32 Gr.2

1月12日 講師 浅井 恵子

1. Flower of Edinburgh R-32 BK-1

2. Lord Rosslyn's Fancy J-32 Bk-15

3. Grant's Reel S-24 Bk-12

1月26日 講師 浅井 恵子

1. The Linton Ploughman J-32 BK-5

2. Lady Dumfries R-32 MMM

3. Lady Lucy Ramsay S-32 MMM

2. インターミディエイト・クラス

11月3日 講師 三木 真理

1. Two and Two J-32 Bk-19

2. Mrs. Macleod R-32 Bk-6

3. Land of the Heather Hills S-32 Barry Priddey; Capercaillie Bk-2

4. Somebody S-16 Hugh Foss; Dances to Song Tunes

12月1日 講師 兼松 千奈美

1. Wedding in St. Monans J-32 Mary Brandon

2. The Annan Reel R-32 Sue Petyt

3. Balmaha S-32 Hayens #6

4. Ramadan-ce R-32 John Drewry; Turkish Set

1月5日 講師 神倉 那智子

1. Sunshine and Sweetie's Jig J-32 BK-48

2. Promise of Spring R-32 Ruth Taylor; Coast to Coast with Scotch Mist

3. A Summer Meeting S-32 BK-48

3. ジェネラル・クラス

10月4日 講師 林 浩子 ピアノ 市川 洋子

1. The Carrick Lass J-32 Jean Attwood; Alexander Dances Book 1

2. Just For You R-32 Ann Dix; The Burnham Set

3. Over The Hill J-32 John Drewry; Donside Book

4. Kelpie's Haugh S-32 Barry Priddey; Green Lady Book

5. Glenburnie's Rant R-32 John Bowie Dickson

11月1日 講師 清水 豊 CD

1. Hunter's Moon J-32 John Drewry; Bankhead 4

2. Out of Africa R-32 John Drewry; Greenburn 3

3. The Sunlit Square S-64 John Drewry; Bankhead 4

4. Duncan Gray R-40 John Drewry; Rondel
 5. The Quaich S-32 John Drewry; Rondel
 12月6日 講師 西森 典子 CD
1. Royal Edinburgh J-32 Elizabeth A Harry ; Bk of Edinburgh Branch
 2. The BAMFAD R-32 Ian Brockbank ; The Badger's Sett
 3. Three Score By Four S-32 S.Adam & J.Gardner ; Dunedin Dance Bk-6
 4. The Christmas Tree R-32 Barry Skelton ; Pohutakawa Book
 5. The Water of Leith S-32 John Wilkinson ; Bk of Edinburgh Branch
 1月10日 講師 松木 道子 CD
1. On Bended Knee J-32 Iain Boyd ; A Touch of Gold
 2. Lightning at Dawn J-32 Ann Robertson ; Diamond Collection
 3. Cold Hands, Warm Heart S-32 Fiona Mackie ; Dundee Dancing
 4. Diamond Reflection S-32 Ken Martlew ; Diamond Collection
 5. Happy Returns R-32 MMM

2015年度ランチ・クラス担当ティーチャー一覧

2015年度ランチ・クラスの予定表です。変更になる場合もありますので、毎月のニュースで再度ご確認ください。
 (Beginners Class の3か月通して指導では都合の悪いティーチャー方が多く、変則的な体制となりました。)
 天候などの突然の悪状況下でクラスが開催できないことがあります。その場合は担当委員に電話などでご確認お願いいたします。

Beginners Class 第2・4月曜日 13.30 - 16.00		2015年	Intermediate Class 第1月曜日 13.30 - 16.00		General Class 第1土曜日 18.20 - 20.30	
13日・27日	境 雅子		4月	6日	田中弘美	4日
11日・25日	渋谷明美	5月	4日	鳥山豊喜	2日	富谷佐千子
8日・22日	境 雅子	6月	1日	中田多鶴子	6日	鳥山豊喜
13日・27日	疋田千鶴子	7月	6日	有田深雪	4日	有田典和
10日・24日	境 雅子	8月	3日	金田治子	1日	若松陽子
14日・28日	渋谷明美	9月	7日	林 浩子	5日	鳥山豊喜
12日・26日	寺久保ヒロ子	10月	5日	篠塚昌子	3日	富谷佐千子
9日・23日	寺久保ヒロ子	11月	2日	クレメント・篤子	7日	小山かおる
14日・28日	寺久保ヒロ子	12月	7日	渡部多美子	5日	小山かおる
		2016年				
11日・25日	神倉那智子	1月	4日	神倉那智子	9日	鈴木百代
8日・22日	長峯真弓	2月	1日	境 雅子	6日	石田由美
14日・28日	神倉那智子	3月	7日	神倉那智子	5日	クレメント篤子(予定)

セクレタリから

若松 陽子

長年お世話になりました本部職員 Elspeth Gray が昨年末退職、Liz Foster が 2015 年春頃退職されます。
今年度の Management Board の東京ランチ担当者は Elizabeth Harry さんです。

・**2015 Summer School 案内 (DAA: Dancing Achievement Award)**

Week 1: 7 月 26 日~8 月 2 日 DAA Advanced

Week 2: 8 月 02~09 日 DAA Intermediate Family Week (12 歳以上) Music Course

Week 3: 8 月 09~16 日 DAA Very Advanced

Week 4: 8 月 16~23 日 No DAA

・サマースクールへの奨学金申請は、11 月 26 日が締切日

・**Scottish Country Dance Weekend in Malta** 2015 年 9 月 18 日~21 日

講師: トム・マッキンリ、ミュージシャン: フィットル・ジョンス&スー・ジェニングス

参加費 : €550 (2015 年 3 月末まで早期申し込みは€530)

引き続き9月 21 日~27 日マルタ/シチリア観光プログラムもあり。参加費: €850(早割€820)

・**Weekend in Portugal** 2015 年 12 月 4 日~6 日

講師: Jamie Berg、ミュージシャン: James Gray(ピアノ)、Sarah Jame Summers(フィドル)

参加費: €320(2015 年 7 月末迄なら€270)

* 詳細はセクレタリ若松までお問い合わせください。